

# 宝塚市立病院が目指す病院像【概要版】

## 1 はじめに

宝塚市立病院は急性期医療を提供する地域の中核病院として、また、公立病院として採算性の面から民間病院では提供が困難な医療を確保すべき役割を担っています。水道、ガス、電気等のライフラインが市民にとって不可欠であるように、市民が住み慣れた地域内で医療を完結できるためには、今後とも市立病院の存在は不可欠です。

今後も市立病院の役割を継続して果たしていくため、今般、国から示された経営強化ガイドラインを踏まえて経営強化に取り組むとともに、将来における医療環境の変化を見据えて、市立病院の今後のあり方を示すものです。

## 2 持続可能な経営基盤の強化について

医業収益の確保に向けた取組を強化するとともに、経営の効率化に向けた取組を行い、経常黒字化を継続することで、病院事業の経営基盤を強固なものとしていきます。

## 3 今後の医療提供体制について

### (1) 地域医療構想を踏まえた役割

市立病院においては、阪神医療圏の医療機関と病床機能を相互に補完（機能分化・連携強化）しながら、地域住民や地域医療機関から選ばれる地域に密着した質の高い急性期中核病院として、市立病院の理念、基本方針に基づいた取組を推進することにより、公立病院としての使命を果たしていきます。

### (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けた役割

地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護・福祉との連携を強化し、緊急時における後方病床としての役割を担うことや人材育成に取り組めます。

### (3) 機能分化・連携強化

市立病院においては、地域において中核的医療を行う基幹病院として急性期機能を担うこととし、今後、他の医療機関との機能分化・連携強化の具体的な方策について協議していきます。

### (4) 重点取組項目

#### ① 病床機能

地域において中核的医療を行う基幹病院として地域医療機関と連携を強化し、急性期病院の役割に加え、高度急性期病院としても一定の役割を担っていきます。

#### ② 救急医療機能の強化

救急受入体制を強化し、断らない救急を一層推進します。

#### ③ 今後の医療ニーズに対応する医療機能の強化

以下の疾患領域について特に注力します。

・地域がん診療連携拠点病院として注力すべき疾患

ア 新生物（特に消化器系及び呼吸器系に係るもの）

・高齢化の増加に伴い、注力すべき疾患

イ 消化器疾患、ウ 呼吸器疾患、エ 心疾患、オ 脳卒中、カ 糖尿病・肥満症、

キ 損傷・中毒、筋骨格疾患、ク 泌尿器疾患

#### ④ 新興感染症等の感染拡大時における医療体制の構築

新興感染症等の感染拡大時において、素早く対応できる医療体制の構築に取り組めます。

#### ⑤ 災害時における医療体制の充実

災害拠点病院として、災害時に即応できる体制整備に取り組めます。

## (5) 診療体制及び病床数

### ① 診療体制について

現行の診療科目を基本としますが、今後の医療ニーズや注力すべき疾患への医療資源投入量等の状況により見直します。

### ② 病床数について

将来の医療需要の減少予測、収支見込、市の財政負担、建設候補地での建物規模も勘案しながらダウンサイジングを行います。

## (6) ICTを活用した医療の充実

ICTやAIを活用し、医療の充実を図ります。

## (7) 医師の確保及び医師の働き方改革の推進

今後も兵庫医科大学をはじめとする関連大学との連携を強化することで、安定的な医師の確保を図るとともに、医師の働き方改革を推進します。

## 4 経営形態の見直しについて

経営強化ガイドラインに示された考え方を踏まえて見直しの必要性について検討を行った結果、市立病院は地方公営企業法全部適用の経営形態で経常黒字化を実現していきます。

## 5 今後の課題について

### (1) 建物の老朽化への対応

配管更新工事に要する工期・工事費、診療・入院休止に伴う影響、配管以外の建物や設備の機能面での劣化状況を総合的に勘案すると、今後、配管更新工事ではなく、建替えに向けた議論を進めていく必要があります。

### (2) 財源の確保

建替え財源の確保に向けて、市立病院においては持続可能な経営基盤の強化に向けた取組を着実に実行していくとともに、市においては行財政経営基盤の強化に向けた取組を推進していきます。

### (3) 新病院の開院に要する期間

構想・計画段階（基礎調査（敷地調査）、基本構想・基本計画）	・・・約1年から約2年
設計段階（基本設計・実施設計）	・・・約1.5年
工事段階（建築工事）	・・・約2年から3年

### (4) 新病院開院後の収支シミュレーション

今後のダウンサイジングを見据え、病床数を350床として試算した結果、純損益については開院後4年目以降は黒字を確保できる見込みです。

なお、現時点で病床数を350床に決定しているものではありません。

## 6 おわりに

詳細については国や県から示される方針や計画等を踏まえ、今後の基礎調査（敷地調査）に基づく基本構想、経営強化プラン、基本計画を策定する中で市民の意見も聴きながら、兵庫県、兵庫医科大学、市医師会等関係機関と協議を行い、決定していきます。